

はじめに

1909年9月に志田 順 先生が京都に赴任し、地球物理学の研究を始められてから、昨年がちょうど百周年であった。この機会に京都大学における地球物理学研究の百年の歴史を振り返ってみるのは有意義なことであると考え、関係各位のご協力を得て、2009年度に国際高等研究所フェロー研究会：「京大地球物理学研究の百年」を3回にわたって開催した。

当初、研究会の集録を印刷する予定はなかったが、研究会の世話人として加わっていただいた廣田 勇・荒木 徹・両名誉教授と私の3人で検討した結果、計3回の研究会の講演録に加えて、講演者以外からも京大地球物理学研究の百年の歴史に関連した寄稿を集め、それらを集約した冊子体の集録「京大地球物理学研究の百年」を2010年3月に刊行することができた。

この集録を希望者にお送りしたところ、予想以上の反響を呼び、「集録を読んで新たな史実を知ることができた」などの感想が数多く寄せられた。そのなかには、「京大地球物理学研究の百年」ではあまり触れられなかった分野も含めて、ぜひ集録の続編を発行して欲しいという声も多かった。さらに、当方で把握していなかった公立図書館からも寄贈の申し込みが届いたのにはいささか驚いた。これらを踏まえて世話人の間で検討を重ねた結果、集録「京大地球物理学研究の百年」の続編として「京大地球物理学研究の百年（Ⅱ）」を新たに刊行することにした。

集録（Ⅱ）では、前回の集録では手薄であった海洋物理学・陸水学・温泉学分野の歴史展望の執筆を複数の関係者にお願いするとともに、京大から数多くの隊員を派遣している南極観測についての寄稿を新たに依頼した。また、南極観測に参加した京大関係者の名簿も作成した。さらに、かつて京大で地球物理学の研究に関与し、今は京大を離れて活躍しておられる皆さんに京大の学生・院生及び若手研究者に向けたメッセージを寄せてもらうことにした。

このように企画から約半年で、「京大地球物理学研究の百年（Ⅱ）」を纏めることができた。集録（Ⅱ）の上梓に際して、貴重な時間を割いて本集録に原稿を寄せてくださった執筆者の皆さんや「南極観測隊：京大関係参加者リスト」の作成及び「関係教員の在職期間一覧」の改定にご協力いただいた多くの関係者の皆さんに深く感謝を捧げたい。なお、本集録には今は亡き高橋淳雄先生が1992年に「海の研究」（第一巻、第5号）に投稿された「野満隆治先生と海洋学」を史料として転載してあるが、この転載を許可してくださった日本海洋学会にも厚く御礼を申し上げる。

本集録が、京大地球物理学研究の過去を振り返り、将来のさらなる研究発展に繋がることを期待したい。

（竹本 修三）